

2012年春休み ふくしまキッズ in 飛騨高山 (2012年3月29日~4月3日)

活動報告書



主催 ふくしまキッズ実行委員会

協力 NPO法人 教育支援協会東海

一般社団法人ふるさと体験飛騨高山

後援 岐阜県教育委員会

高山市教育委員会

名古屋市教育委員会

垂井町教育委員会

「ふくしまキッズ」春のプログラム全体概要

ごあいさつ

「ふくしまキッズ」の活動は、この春で早くも3歩目になりました。昨年の夏休み、冬休みに参加した子どもたちには、家族を想う気持ち、互いを励まし合うこと、自立心・協調性などと同時に感謝の気持ちが確実に育っていると実感しています。

福島で起きてしまった原発爆発事故の悲劇は、今もなお続いています。そうした環境の中、「ふくしまキッズ」の活動を通して、子どもたちが少しでも笑顔と元気を取り戻してほしいと、私たち実行委員会は心より願っています。

私たちは前回の冬の活動から新たに「子ども親善太子」という考えを打ち出しました。福島の子どもたちは、彼らだからこそ伝えられる大切なメッセージ：「普通の生活が一番の幸せであるということ」を一人ひとりが持っています。活動に参加する際には、そうした気持ちを「親書」という形で作文に書いてもらっています。保護者の皆さまにも日頃の子育てで苦慮していることなど「新書」に書いていただいています。各地で発表の場を持たせていただいたところ、受入れ地の関係者の皆さま、並びに同世代の子どもたちの心に響きました。今回の春の活動や、その先の活動においても必ず「親書」は持参したいと思っています。各地で多くの皆さまのご助力により楽しい体験活動をさせていただくことと、この親書を持参する意味の大きさを感じながら、福島の子どもたちには、心豊かに育って欲しいと願っています。彼らは将来新しい福島を創る大切な人材です。

全国の皆さまの温かいご支援により、この春の活動で新しく迎えていただける地域も増えました。ふくしまキッズの活動の輪は確実に広まっています。心より感謝いたします。私たちは今後も「ふくしまキッズ」の活動を継続してまいります。今後とも皆さま方の変わらぬ温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ふくしまキッズ実行委員会
委員長 進士 徹
<http://fukushima-kids/org/>



■活動趣旨

- ① 本プログラムは、福島原発事故により放射能汚染の深刻な影響を受けている福島の子どもたちに、せめて学校の長期休暇に、何の心配もなく、思いきり「子どもらしい生活」を送ってもらおうと同時に、子どもたちの「学びと育ち」を支援する教育事業を実施し、多様な体験や人とのコミュニケーションをつくり出すことを目的とします。
- ② 本プログラムに賛同する家庭の子どもたち（小・中学生）を対象に、参加費は活動の一部費用のみの負担とし（生活保護家庭は全額無償）、応募者多数の場合には抽選により参加者を決定します。
- ③ 本プログラム実施に関わる諸経費は、支援金の寄付を募ります。ふくしまキッズを継続的に実践することで、支援の輪を徐々に広めながら、日本に「子どもは社会で育てる」という考え方を定着させる持続的な活動へとつなげていきます。
- ④ 本事業実施に当たっては実行委員会を結成し、ふくしまキッズの活動趣旨に賛同し、協力関係を築いていただける受け地（受入協議会）と協働し運営します。

■ふくしまキッズ実行委員会

- 委員長・：進士徹（NPOあぶくまエヌエスネット 理事長）全体総括
- 実行委員：吉田博彦（NPO教育支援協会 代表理事）支援金募集・渉外担当
- 実行委員：宮本英樹（NPOねおす 理事）北海道受け入れ担当
- 実行委員：安江こずゑ（NPO教育支援協会北海道 代表理事）事務局担当
- 実行委員（非常任）：西尾真由美（NPO教育支援協会東海 専務理事）飛騨高山受入担当
- 実行委員（非常任）：海野義明（NPOオーシャンファミリー 代表理事）葉山三浦受入担当
- 実行委員（非常任）：芝野靖（NPO教育支援協会長野 代表理事）信州塩尻受入担当
- 監査委員・：金野栄太郎（公認会計士）会計管理・決算管理担当
- 監査委員・：立川直樹（あずさ監査法人）会計管理・決算管理担当

■ふくしまキッズ支援委員会（敬称略）

- 遠藤和章（北海道公民館協会事務局長）
- 玄侑宗久（作家・震災復興構想会議委員）
- 白石康次郎（海洋冒険家）
- ジョン・ギヤスライト（ツリークライミングジャパン）
- 田口ランディ（作家）
- 寺脇 研（京都造形芸術大学教授）
- 戸塚 隆（ジャーナリスト）
- 吉田研作（上智大学教授）
- 湯川れい子（音楽評論、作詞家）
- 藤田 保（立教大教授）
- 中島 岳志（北海道大学大学院法学研究科准教授）

■ふくしまキッズ 特別賛同人

- 吉永小百合（俳優）
- 西田敏行（俳優）
- 坂本龍一（音楽家）
- 日野原重明（聖路加国際病院理事長）
- 鎌田 實（医師・作家）
- 新井 満（作家・作詞作曲家）
- 辻井 喬（詩人・作家）
- 秋山豊寛（宇宙飛行士）
- 細川佳代子（NPO法人 勇気の羽インクルージョン2015 理事長）
- 小林武史（音楽家）

「ふくしまキッズ」飛騨高山プログラムの実施概要

1. 参加者

小学校1年生～小学校6年生（平成24年4月3日現在で13歳未満）
福島県の児童：37名 ・ 東海3県の児童：12名 ・ 高山市の児童

2. 開催日

平成24年3月29日～4月3日（5泊6日）

3. プログラム内容 飛騨高山で心に残る感動体験を！

日本一広い市、高山市（飛騨高山）は中心部の観光市街地から少し郊外に出ると自然豊かな旧町村の農村地域が広がっています。今回は市街地の南西に位置する一之宮町の体験民宿（みづの荘・三宅荘）を拠点に、地域の人達とのふれあいや農業体験、自然体験などの様々な体験活動を行いました。また、観光地飛騨高山の古い町並みを散策して歴史ある飛騨高山にも触れました。子ども同士で話し合ったり、地域の子どもたちや様々な人達と交流しながら、民宿での生活や体験活動を通して心に残る楽しく有意義な時間を過ごすことができました。次世代を担う子どもたちがそれぞれの視点や感覚で飛騨高山のふるさとを体感し、農村地域の理解や自然との共生などにも関心を持っていただけたと思います。

4. 運営体制

- 総責任者
本多 功（NPO法人教育支援協会東海 代表理事）
- 連絡先事務局機能
鈴木仁孝（一般社団法人ふるさと体験飛騨高山 事務局長）
岐阜県高山市清見町三日町165 TEL・FAX：0577-68-3020
- プログラム・安全管理責任者
鈴木仁孝
- 協力機関
岐阜県高山市・高山市教育委員会・垂井町教育委員会
- 後援
岐阜県教育委員会・高山市教育委員会・名古屋市教育委員会・垂井町教育委員会
- 医療・カウンセリングチーム
 - ・高山赤十字病院：高山市天満町3-11 / TEL：0577-32-1111
 - ・久美愛厚生病院：高山市大新町5-68 / TEL：0577-32-1115
 - ・みや診療所 : 高山市一之宮町4322-3 / TEL：0577-53-1238
 - ・看護師 : 中島芳子（高山市一之宮町在住、元高山赤十字病院婦長）
 - ・カウンセラー : 西尾真由美（学校心理士・上級教育カウンセラー）

5. 日程及び活動内容

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
3月 29日	名古屋駅到着11時30分 ⇒ 高山へ												入村式 オリエンテーショ ン 民宿へ移動	夕食 片付 け	入浴	自由時間 宿の人との 交流 学習など	21:30就寝	
3月 30日	起床 朝食 移動	A: 果樹園体験・アップルパイづくり B: マイ箸づくり			昼食	A: マイ箸づくり B: 果樹園体験・アップルパイづくり			生活	夕食 片付 け	入浴	自由時間 宿の人との 交流 学習など	21:30就寝					
3月 31日	起床 朝食 移動	陣屋前朝市と古い町並み散策			昼食	飛騨一之宮 水無神社 大幢寺・臥龍桜見学			生活	夕食 片付 け	入浴	自由時間 宿の人との 交流 学習など	21:30就寝					
4月 1日	起床 朝食 移動	位山ハイキング・高山市子ども達と			昼食	そばうち体験			生活	夕食 片付 け	入浴	自由時間 宿の人との 交流 学習など	21:30就寝					
4月 2日	起床 朝食 移動	熟議「今、子どもにできること」 高山市子ども達と			昼食	芸術家中島法晃氏による芸術創作体験			生活	夕食 片付 け	入浴	自由時間 宿の人との 交流 学習など	21:30就寝					
4月 3日	起床 朝食 移動	退村式→垂井町へ向かう			垂井町で花見・弁当・垂井町子ども達と交流	名古屋駅到着15時頃 ⇒ 福島へ												

6. 子どもたちの主な活動・宿泊場所

活動場所：高山市一之宮町周辺の山林、農家、体験施設及び古い町並など

宿泊場所：高山市一之宮町の体験民宿（みづの荘・三宅荘）

7. 活動内容

体験民宿（農家民宿）での宿泊体験 / マイ箸づくり / 果樹園での仕事体験とアップルパイづくり / 高山の古い町並散策（民家の古いお雛様も観覧） / 巨樹探索 / 位山ハイキング・自然散策（高山市子どもたちも参加） / そば打ち体験食文化体験 / 芸術家中島法晃氏によるパフォーマンスと創作体験（書の共同作品制作） / 「熟議」（子ども同士による未来についての自由な話し合い）

2012年春「飛騨高山プログラム」への思い

以下は「ふくしまキッズ飛騨高山プログラム」に子どもを参加させるにあたり事前に保護者の皆さまから実行委員会に寄せられた思いや願いです。

●毎日放射能を気にして生活をしているので、安心な所でのびのびと生活させたいです。このような活動を支援していただいていることにとても感謝しています。おいしい空気をいっぱい吸って、心と身体に栄養を取りこんでほしいです。よろしくお願いします。

●説明会に参加して主催者の皆様のお話を聞くたびに、福島の子供たちを心配し続けてくださる方々がたくさんいらっしゃることを感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。このプログラムを継続するためには並々ならぬご尽力があることをしっかりと意識をして送り出したいと思っています。ふくしまキッズに参加することで、震災をマイナスのみにとらえるのではなく、震災があったからこそその出会いがあり、また、かけがえのない経験を通してプラスに変えていけたらと思っています。いつかわが子も進んでボランティアができるような子に育ててくれることを願い、このプログラムに参加させていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

●未だに体育館、校舎ともに壊れたままですが、子供たちは文句ひとつ言わずに生活しています。そんな中、長期休暇の福島キッズへの参加を楽しみに、日々何とか乗り切っています。見えないストレスは多々ありますが…自然の中での体験活動、そして多くの方々とのふれあいを楽しみにしています。子供たちが大きく成長できますように。どうぞよろしくお願いいたします。

●これまで夏の北海道・冬の愛媛プログラムに参加させていただきました。スタッフの方はもとより、たくさんの方々に、温かく迎えていただき、親では決して与えてあげることのできないたくさんの方々の体験をさせていただきました。子供たちは、心にも体にもたくさんの方々の栄養を頂き、また学校生活を送らせてもらっています。大変な状況にある福島県の子供たちではありますが、この素晴らしい体験があるからこそ、きっと強くたくましく、そしてやさしい子供に育っていけるように思います。どうか春も参加の機会を与えてくださいますようお願いいたします。子供たちも高山での活動に思いを馳せています。

●前回、お友達になった方との一緒に参加を楽しみにしています。ふくしまキッズを通して県内でも友人が増え、県外での交流も今後のつながりとして楽しみにしています。子どもには放射線を気にせず思いのまま行動してもらいたいと思います。とにかく戸外で思いっきりののびのびと遊ばせてあげたいです。

●放射性物質から離れ、のびのびと本来の子供の遊びを満喫し、発散してきてほしいと思います。とにかくのびのびと…。

●放射線を一定期間浴びないでいると、体から抜けると聞きました。嘘でも信じたいです。よろしくお願いします。

●春のプログラムがあることを知りとても感激しています。夏のプログラムに参加させていただきました折には、とても貴重な体験ができ、子供もひとまわり成長できたように思います。いわきの放射能値は福島や郡山に比べると低いので、冬のプログラムは他の方々に参加してもらおうと遠慮しました。しかし今回は子供達が「ぜひ行きたい」と言うので、申し込みさせていただきました。日頃の食生活では放射能を取り込まないよう気をつけ、洗濯物なども室内で干すといった生活が続いています。このような心配をすることなく、歴史・文化のある飛騨高山で思い切り食べて遊び、楽しい春休みを過ごさせてあげたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

●3. 11以降、生活スタイルや価値観がまったく変わってしまいました。子供が普通に外で遊ぶことが当然できなくなりました。国や県は、非難区域以外は普通の生活をして何の問題もないと言います。100ミリシーベルトでもガンの発生率は数%上がるだけだから、今の線量は気にするほどではないと言います。しかし、親からすれば、子供の病気の発生率をほんのわずかでも上げたくありません。必然的に子供を極力外に出さない生活が始まりました。しかし、それも子供にとって良いことなのか？いつも自問する日々でした。そんな中、今年の夏に出会えたのがこのふくしまキッズでした。当初は、長期間、北海道へ子供を預けるという不安はありましたが、いつのまにか頼もしくなっていた娘、色々な経験をしてきた娘を見て、単に放射能を避けるだけではない経験をすることができたと実感しています。震災後、つらいことの多かった日々の中で、子供がふくしまキッズへ参加できたことは数少ない良い出来事だと感じています。夏の北海道で娘は、長期の集団生活での人間関係やボランティアの学生さんや地元の人たちとの繋がりを覚えることができました。特に一人っ子の娘には非常に価値のある経験だったと思います。冬休みが短く、残念ながら冬のプログラムには参加できませんでしたが、春の高山プログラムでは、娘も新たな出会いや経験をとても楽しみにしています。親としては小学校高学年なので、低学年の子供達の面倒を積極的にみるようになることも期待しています。

●飛騨高山という遠く見知らぬ土地で、福島とは違う色々な体験をし、日頃外活動できない鬱憤を思う存分発散してもらえたらと思います。夏のプログラムで大きく成長した娘ですが、子供は吸収も早い忘れの早いと実感している今日この頃です・・・継続して参加することによって、ふくしまキッズで学んだことを定着させたいです。冬休みは親の仕事の都合上参加できず、今回は本人が絶対に行くと言っています。原発災害以来、野外に出る機会が減ってしまいました。この企画を通して、自然への感謝と人とのつながりを感じてほしいと思います。

●学校の校庭も徐染作業中で全く使えず、公園等は徐染の予定もなく、外で遊ぶ事はこの1年間全くできていません。「安心して外で遊べる機会が欲しい」というのが私たちの切実な願いです。どうぞよろしく願いいたします。

2012年春「飛騨高山プログラム」活動記録

■福島出発～名古屋到着～高山到着・入村式（3月29日）



■リンゴ園での作業～アップルパイづくり（3月30日）



■マイ箸づくり・さるぼぼづくり（3月30日）



■陣屋見学～古い町並み散策（3月31日）



■水無神社～大憧寺・臥龍桜見学（3月31日）



■高山市の子どもたちとの交流（4月1日）



■そば打ち体験（4月1日）



■高山市の子どもたちとの交流「熟議」（4月2日）



■ 芸術家中島法晃氏との芸術創作活動（4月2日）



■ 退村式～高山とのお別れ（4月3日）



■ 垂井町での交流（4月3日）



プログラム終了後 保護者様からの便り

お世話になった皆様へ

先日は子どもたちを長い間楽しく生活させていただき本当にありがとうございました。
子どもたちは震災以後何かと不自由を余儀なくされ、心身にかかるストレスは大きいものと感じております。それでも子どもたちは、地元郡山で家族や友だちと暮らすことを決めました。
今回の飛騨高山プログラムを無事終え、家に帰ってきた子どもたちからは、どなたがどのようにお世話をしていただいたのかが分からない程、いろいろな名前が飛び交い、本当に多くの方々にお支えいただいたのだと心より感謝いたしております。地元高山の皆さま、ボランティアの皆さま、多くの方々の支援のお蔭で、子どもたちはかけがえのない貴重な体験をさせていただきました。子どもたちにとって、見知らぬ方々との温かい出会い、このプログラムで出会った友だちとの思い出は大きな財産となることでしょう。
この度は本当にお世話になり、重ね重ねお礼申し上げます。

追伸 お世話になりました民宿には、いつか家族全員でまたお世話になりたいと思っております。

遠藤晃太・なのの父より

NPO教育支援協会東海様

お礼の手紙が遅くなり大変
申し訳ありません。

飛騨高山プログラムでは
貴重な体験が出来て

子供達もとても楽しく

過ごしていたようです。帰って来るなり

「もっと長くいたかった」と言っております。

私達はこのような機会を与えて

くださった皆様にとっても

感謝しております。本当に

ありがとうございます。

福島はまだまだ問題を抱えては

おりますが、少しずつ元の美しい福島に戻せるよう

私達も努めていくつもりです。

いつの日か飛騨高山の子供達にも

遊びに来てもらえるように。

本当にお世話になりました。

渡辺 岳史・直美

追伸 娘がまるねえさんの若さに
大変おどろいておりました。



プログラム終了後 参加者からの便り

<みずのそのおば'さんおじ'さ
 んへ>
 6日かんおもしろいごはんを
 つくってくれてありがとう
 ござ'います。ぼ'くたちが
 がえってきたらいつもおか
 えりとこえを かけてくれて
 ありがとうござ'いました。

 おじ'さんはナイフ/イク
 のときにつれていってく
 れてありがとうござ'いま
 した。

 うめつりんたろうより

* 三宅庄のみなさんへ。
 福島キッズの時にはお世話
 になりました。♥
 普段はおかわりをばいけど、
 三宅庄のご飯はおいしくて何回
 もおかわりをしました。高山
 の米は、いつも食べるお米よりも
 すごくおいしかったです。
 高山の思い出は忘れられませ
 ン。今度は家族で行きたいと思
 います。
 本当にありがとうござ'いま
 した。

さるぼぼ
 福島のおぼ'おたい
 赤べこ

渡辺真由

すずい♥
 すずい♥
 とねは元気でか?♥
 たか山でいっはいともたちてきて
 よかったです。♥
 ありがとう♥

じいじへ♥
 じいじ元気でか?♥
 わたしは元気でか?♥
 いろんなことをして
 おせたのしかったです♥
 またいらてみたります♥

トムへ
 いつもあそん
 でくれてあ
 りか'どう。
 リずむより

トム
 まーちゃん
 リずむ

アップルパイ作りのみなさんへ

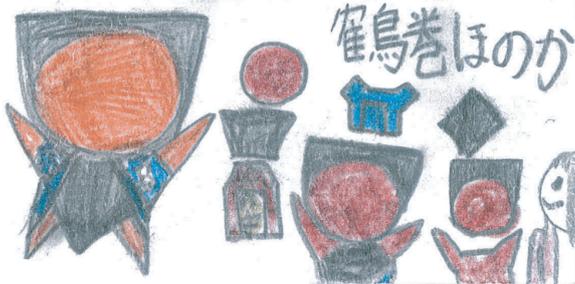
ていねいにアップルパイの作り方を教えてくださり
ありがとうございます。
ほんと、お父さんはパイが好きなので家に帰って、
次の日に作りました。リンゴジュムをつけて食べたら、
お母さんもアップルパイにはまりました。すごくおいし
いアップルパイの作り方がよく分かりやすく、説明
してくださりありがとうございました。説明
パンにアップルジュムをぬって食べました。すごくおいしか
たです。アップルパイもアップルジュムもすごくおいしか
たです。まじです。

遠藤 日太

「さるぼぼ作り」のみなさんへ

さるぼぼ作りとても楽しか
たです。まだ、おさいぼうがでな
かったので、手つだ、てくれてあ
りがとうございます。

とてもかわいくできたので
大切にします。



🍎🍌 スッキーへ 🌸💖🌟

いつもわたしたちのめん
どうをみてくれてありがと
うございました。

わたしは、スクッキーといの
田い出がたくさんでき
ました。

わたしが一番気に入
った行じは、いっは、いあ
ってかききれません。さるぼ
ぼもおえはもみんなで作
ったさくひんもぜん、楽しか
たです。また、お山でもが
んばります。つむぎより

学生ボランティアのみなさんへ
岐阜県のプログラムでは色々あり
がとうございました。いっしょにすこした
る百問も忘れられませんが、部屋で
相撲をとったり、テレビを見たりとど
ても楽しかったです。楽しい思い出い
っぱい増えました。本当にありがとうございました。
神熊倉拓未 (ゴト)

高山市の児童・保護者様からの便り

福島の子どもたちとの交流後、高山市の児童・保護者の方からいただきましたお便りをご紹介します。紙面の都合で直筆のお便りをタイプいたしました。

●福島の子どもたちは、放射能のえいきょうで、外で遊べないと知り、「本当にそうなのかな？」とおどろき、かわいそうだと思います。だから、本当に福島の子どもたちと会って、仲良くお話ができたらいいなと思い、「ふくしまキッズin高山」に参加しました。

はじめて福島の子どもたちと会ったとき、私が思っていたより明るかったです。友だちもたくさんできました。熟議でいっしょのグループだった福島の子に、「外で遊べてずるい！」と言われました。もし、私がその福島の子の立場だったら、自分たちのできないことがふつうにできるので、うらやましくて、そう思ったと思いました。それと、「ニュースや新聞では本当のことを言っていない。」と聞き、しょうげき的でした。被災地がどうなっているかしっかりと知ることが大切だと思うので、ニュースや新聞ではきちんと事実を伝えてほしいです。

これからは、自分にできる、おこづかいの中から募金などを積極的にやりたいです。学校で行っているベルマーク・キャップ集めなどは募金として被災地の人たちに利用してもらえるか調べたいです。

自分にできることは、募金、ボランティア活動、被災地がどうなっているかしっかりと知ることだと思いました。（久々野小 白田さん）

●ぼくは、ふくしまキッズの熟議にさんかしました。どうしてさんかしようと思ったかと言うと、福島の子どもたちとお話をしたり、会ったりしたかったからです。

ぼくは、始めすぐすぐきんちょうしていたけど、じこしょうかいをしたり、お話をしている間に、きんちょうかんがとれてきました。

福島の人たちは、放しゃのうのせいで、外で遊ぶことができないと言っていました。また、外に出る時は、マスクをかならずしなければならぬと言っていました。それを聞いてぼくは、とてもかわいそうだと思います。もし、ぼくが外で遊べないと言われたら、がまんするのがむりだと思いました。

同じグループの「アキティー」という3年生の子となかよくなりました。お昼ごはんの時は、アキティーといっしょに食べました。アキティーはみんなをわらわせるような楽しい人でした。

ぼくは、自分にはなにができるかを考えたりおしえてもらったりしました。電気をこまめにけしたり、あらいもの水をこまめに止めたりすりことで、福島の人たちのやくにたてるのだとわかりました。

ふくしまキッズにさんかしてよかったです。（北小 大坪君）

●福島の子供達と交流するという見出しに、迷わず子供に参加を勧めました。新聞やテレビで大変な事は知っていても、会って話をしてみなければ得られないものがたくさんあるであろうと思い、参加が決定する前から、改めて福島について知っている事、感じている事を話してきました。

本人は参加するにあたって「言ってみよう」と「どうして行くんだろう？」という気持ちが半々でした。とにかく難しく考えず、子供同士の目線で触れ合ってきて欲しいと思っていました。

一日目を終え、子供が話してくれたのは、「地震ってめちゃくちゃ揺れておもしろいんだよ。揺れに合わせて体をゆすった。」と福島の子が話してくれたという事でした。私達は伝えられている情報だけでしか知る事はできませんが、当事者である彼らが語ってくれた事はまさに本音だと思いました。しかしながら、それすらも心配をかけまいとする子供達なりの気遣いかとも思いました。地震、津波、原発がなければ出会うことのない子供達。ただ普通の年頃の子供同士として遊びたかったのかもしれない。同情ではなく友情が続く事を切に願います。

限られた時間のなかで私達ができる事を話すというのは、この一年沢山の方々がされてきた事に重なる事になったようですが、やはりそれが重要な課題でもあると痛感しました。

子供達が話してくれた事を一過性で終わらせないために大人達は協力し合い、助け合い、やり続けていくべきで、それが子供に示す手本となるであろうと思いました。

まだまだ甘えの強い子供と思っていましたが、大きな声で意見発表している姿は頼もしく感じられました。親子共に良い時間を与えて下さった事に感謝致します。ありがとうございました。（高山市の保護者様）

福島の子どもたちと春休みを過ごそう

“2012年春休み ふくしまキッズ” に
参加して、福島の子どもたちと交流しませんか！

ここが福島県だよ

岐阜県



福島県

交流には2つの活動があるよ！

1. 位山ハイキング

日付：平成24年4月1日（日）
時間：午前9時～13時
活動内容：位山のハイキングを通して、福島の子どもたちとふれあう



1. 小学1年生から6年生まで、だれでも参加できます。
2. お金はいりません。
3. 申し込みは、保護者あて文書の中にあります。
4. 会場までの送り迎えは、お家の方をお願いして下さい。
5. くわしい持ち物などは、後で連絡します。

2.



意見交流（話し合い活動）

日付：平成24年4月2日（月）
時間：午前9時～13時
活動内容：福島の子どもたちと、「今、私たち子どもにできること」について、話しあいます。

一日でも二日でもOKです！



福島の子どもの作文です。

「行ってみたいなあ」「もっとくわしく知りたいなあ」という場合は、どんどん連絡を下さい。

高山市教育委員会

学校教育課 大坪 穂

電話 0577-35-3154

FAX 0577-35-3172

保護者の皆様

高山市教育委員会
学校教育課長

2012年春休み ふくしまキッズ 「福島の子どもたちと春休みを過ごそう」in 飛騨高山 参加のご案内

春寒の候、皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃は学校の諸活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、来る3月29日（木）～4月3日（火）に、ここ高山市におきまして、上記のプログラムが開催されます。（詳細は下記のHPアドレスを参照してください。）

これは、原発事故の影響を受け、苦難の日々を送っている福島の子どもたちが放射能を気にせずに、外で思いっきり遊んでほしい、いっしょに笑ってほしいという願いから、昨年の夏休みの北海道を皮切りに、冬休みには北海道、愛媛、横浜で開催されたものです。これまでに福島の多くの子どもたちが参加して、笑顔を取り戻し、心を癒されました。

このプログラムが高山市で開催されるにあたり、そのプログラムの一部におきまして、福島と高山の子どもたちが交流する企画が設けられました。高山市の学校では昨年3月11日の震災以後、募金活動を行ったり、ボランティア活動をしてきた方の話を聞いたりして、思いやりの心や絆の大切さを学んできました。今回の企画では苦難に負けずに過ごしている福島の同年代の子どもたちの姿や思いに直接触れることができます。それを通して、高山市の子どもたちは、互いの思いを分かち合い、励まし合い、共に助け合いながら生きていこうとする心を育むことができる貴重な機会となると考えます。

交流企画の詳細は裏面にある別紙1のとおりです。

たくさんのお子さんの参加をお待ちしています。

※HP アドレス <http://fukushima-kids.org/>

上記ホームページの右下の「春のプログラム」の下のリンクをクリックしてください。

濃飛抄

地域の視点から

*「かわいい」福島の子ども

ひた高山総局長 浦田直人

葉は、普通にかわいいという時にも使うが、かわいそうに感じた時にも使う。悲しげにはほ笑んだ。三宅さんの表情は、そ

かのよつに、雨間を縫い、外に飛び出した。同市久々野町の果樹園では、まだ冬枯れの園内で元気よく活

話した。三宅さんのところでは「漂流に行ってきたよ」と、泥だらけ

背負った苦勞を氣遣う

「かわいいなあ。福島に帰ったら、また窮屈な暮らしをしなならん」。原発事故被災地の子どもたちを一週間近く預かった高山市一之宮町の民宿「みやけ荘」の三宅幸恵さんは、すっかりなついでくれた子どもたちを思い出し、そう話した。

の言葉そのものだった。子どもたちが高山入りしたのは先月末。寒くて荒れた天気が続いた。でも子どもたちは、福島での生活の埋め合わせをする

動した。伐採された木の枝をみんで拾い集め、表皮を削った。かすかなリンゴの香りに大喜びした。「外のものにはざわっちやいけな」と言われたもから。と幸恵さんに差し出した。

台所でつまみ食いをしたり、男の子たちは枕投げで大暴れしたり、最後の晩は、居間に遊びに来た子もいた。三宅さん夫婦に「お父さん、お母さんへ、毎日おいしいごはんありがとう」と、みんなで書いた手紙を渡してくれた。幸恵さんは、こみあげるものを抑えきれず、小さな子をぎゅっと抱いた。

「あんな子どものころから、苦勞を背負ってかなならん」。幸恵さんは何度も「かわいいなあ」を口にした。

「安心して遊んで」福島の子を招待

2012年03月31日



焼き上がったアップルパイを、おいしそうにほお張る福島県の小学生ら＝高山市久々野町久々野

◆NPOなど、高山へ5泊6日

東日本大震災と福島第一原発事故で被災した福島県の児童37人が30日、高山市久々野町の果樹園「もだに農園」を訪れた。放射能の影響から解放され、山のおいしい空気を胸いっぱい吸い込んで、笑顔と歓声ははじけた。

リンゴの木から切り落とした枝を集める作業を手伝ったり、アップルパイ作りを楽しんだりした。

「落ち葉には放射能が多いから、学校では木にはロープが張られて近づけない。外出は必ずマスクをするけど苦しい」。福島県いわき市から参加した柴田桃佳さん(11)は「いつもはできないことを、たくさんしたい」と目を輝かせた。

同市の渡辺真由さん(12)は「自然の中で思い切り空気が吸えてすっきりする。マスクはもういや」。同県石川町の岡部聡人君(8)は「おいしいアップルパイができたか楽しみ」。

せめて長期休暇には外で思い切り遊んでもらおうと、全国のNPOなどで組織する実行委員会が主催する「ふくしまキッズ」の一環。この春休みは高山や北海道など全国4カ所で約40人ずつを受け入れている。

参加者には震災で肉親を失ったり、県外で避難生活をしたりした子もいる。実行委に参加するNPO教育支援協会東海の西尾真由美専務理事(52)は「震災の苦しみに加え、放射能でも相当大きなストレスを感じている。ここでは安心して遊んでほしい」と話した。

滞在は4月3日までの5泊6日。東海地方の児童12人も一緒に参加している。垂井町の彦坂郁佳さん(9)は「一緒にお風呂に入って楽しかった。福島の友達の顔を絵に描いて贈ってみたい」。

位山のハイキングや地元の児童との意見交換会などもする予定だ。(豊平森)

中日新聞 CHUNICHI Web

【岐阜】

福島の小中学生、高山で春休み満喫

2012年4月3日

福島県内の小学生三十七人が、高山市内で東海地方の小学生十二人と交流しながら、さまざまな体験をして春休みを満喫している。放射線量を気にせず思いっきり体を動かしてもらおうと「ふくしまキッズ実行委員会」が昨年からの全国展開する支援活動で、県内で開くのは初めて。

実行委は全国のNPOで構成し、三回目となる今回は「ふくしまキッズ飛騨高山」と題し、グリーンツーリズムを進める「ふるさと体験飛騨高山」(高山市)とNPO教育支援協会東海(名古屋市)による共催で開いた。

一行は三月二十九日～四月三日の日程で高山を訪れ、古い町並み散策やアップルパイ作り、ハイキングなどを楽しんだ。二日は一之宮町の一之宮公民館で、本巣市の芸術家中島法晃さんの手ほどきを受け、高山へ来て感じたことや思い出を絵や文字にして一人ずつ半紙に書き、模造紙に貼り付けて横六メートル、縦十メートルの大作に仕上げた。

福島県いわき市の小学六年柴田桃佳さん(11)は「(地元では)放射線量が高いので外で遊ばないようにしている。震災前は自転車に乗って遊んでたけど今は乗ってない。高山では草の上で遊べて楽しい」と話していた。(大沢悠)



絵や文字を書いた半紙を貼り合わせて仕上げた大作＝高山市一之宮町の一之宮公民館で

ふくしまキッズ2012春 飛騨高山プログラム 支援者・協賛企業一覧

高山市教育委員会様	(株) モノリス様
岐阜県・高山陣屋管理事務所様	鯉バス株式会社様
高山市一之宮支所様	(株) オーシャングローバルネットワーク様
高山市スポーツ推進員(一之宮地区)様	(株) キョーイク様
一之宮町社会教育推進運営委員会様	(株) 名大スカイ様
一般社団法人ふるさと体験飛騨高山様	(株) フレーベル館様
財団法人位山ふれあいの里様	(株) 錦建築設計様
NPO法人ひだ位山ふるさと学校様	(株) 水野工務店様
みづの荘様	名古屋国際中学校高等学校様
三宅荘様	名古屋経済大学市邨中学校高等学校様
水無神社様	もりの風保育園様
大憧寺様	
(有) オリジナル様	

垂井町教育委員会様	渡瀬伸次様
垂井町民生委員児童委員協議会様	川上恵子様
垂井町自治会様	中島芳子様
垂井町教員有志様	中島法晃様
垂井町不破中学校卒業生有志様	千明様
垂井町PTA様	伊藤哲也様
羽島中学校3年1組様	三島由加様
	中澤様ほか有志一同様

支援金のお願ひ

福島第一原発の被害から子どもたちを守り、支援するために結成されたのが、「ふくしまキッズ実行員会」です。当実行委員会にNPOや行政機関、市民が参加し、学校の長期休暇を活用し「ふくしまキッズ」のプログラムを企画、運営しています。この活動にご賛同いただける皆さまに支援金をご寄附いただき、「ふくしまキッズ」にできる限り多くの福島の子どもたちが参加できるようご支援いただけましたら幸甚に存じます。尚、寄付金は下記口座にお振込みいただけますようお願い申し上げます。

■振込先 /

三菱東京UFJ銀行・小田井(オタイ)支店(店番:238)・普通預金・4752022
特定非営利活動法人教育支援協会東海 代表理事 本多 功

ご寄附いただいた際には、下記e-mailまたはFAXにて、差支えない範囲で、お名前・ご連絡先・メッセージ等をお送りいただけましたら幸甚に存じます。

e-mail: info@kyoikushien-tokai.org / FAX: 052-506-9078